

目 次

1. 洪水警報基準の一部変更

- ・最新の災害データの利用及び流路修正に伴う見直し

2. 大雨特別警報（浸水害）の指標変更

- ・警報基準（レベルⅢ）変更に伴う見直し

3. 防災気象情報の体系整理に向けた基準策定及び運用方法の見直し

- 3-1 防災気象情報の体系整理の概要
- 3-2 現在の主な防災気象情報と警戒レベルとの関係
- 3-3 洪水等に関する情報の主な変更点①
- 3-4 洪水等に関する情報の主な変更点②
- 3-5 新しい防災気象情報（防災気象速報・気象解説情報）

令和7年4月
仙台管区気象台

1 洪水警報基準の一部変更

減災対策協議会
仙台区気象台

洪水の危険度の指標として用いている流域雨量指数を算出するための河川流路（キキクルの流路）を河川改修等の実態に合わせて修正しました。また、最新の水害災害データを加え、災害（1991-2021）と同期間の降雨（流域雨量指数・表面雨量指数）との関係をもとに、大雨警報（浸水害）基準の見直しを行った結果、一部河川の基準を変更することとしました。

今回の見直しにより、近年の災害の危険度及び流路の実態を反映した基準となることから、より適切な警報運用が期待されます。

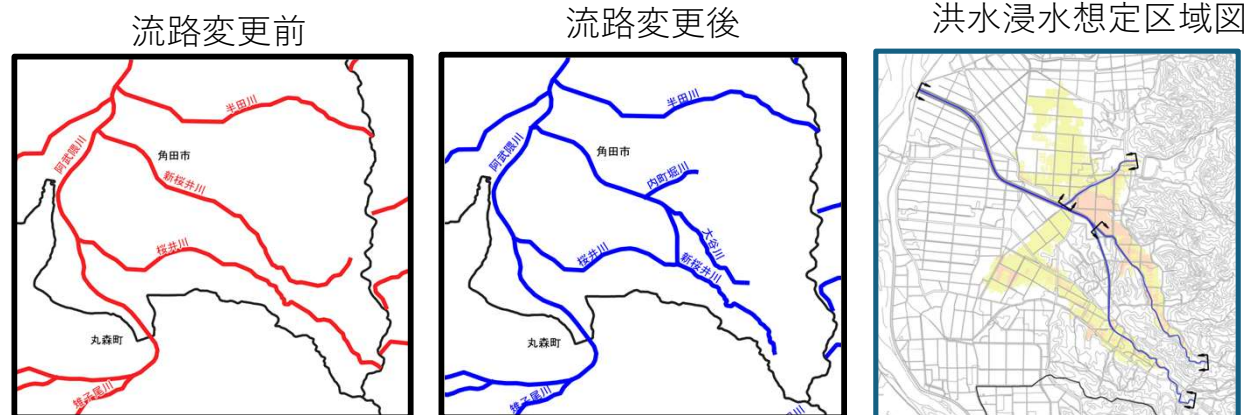
令和7年出水期前に変更予定（実施日調整中）

大雨警報（浸水害）、大雨注意報基準を 変更する市町村	該当市町村なし
洪水警報、洪水注意報基準を変更する市町村	仙台市、石巻市、白石市、名取市、角田市、多賀城市、 登米市、栗原市、東松島市、大崎市、富谷市、蔵王町、 大河原町、村田町、丸森町、松島町、大和町、大郷町、 色麻町、美里町、女川町、南三陸町

従来は、1991年から2020年の災害と降雨の関係をもとに基準を定めていました。今般、2021年の災害を加えた災害データと、実態に合わせて流路を修正して算出した新たな流域雨量との関係をもとに基準を見直（再評価）しました。

※一部河川の流路を修正した場合、周辺の河川への流出・流下状況（指数）も変化するため広範囲の河川の指数に影響する。

流路変更の例（角田市桜井川等）



2 大雨特別警報（浸水害）の指標変更

減災対策協議会
仙台管区气象台

大雨特別警報（浸水害）の指標となる流域雨量指数及び表面雨量指数は、大雨警報レベルⅢ基準（紫）から県内一律の超過率となる値としています。今般、レベルⅢ基準が変更となるため、特別警報の指標となる指数値も変更することとしました。

今回の見直しにより、近年の災害の危険度を反映した指標となることから、大雨特別警報（浸水害）のより適切な運用が期待されます。

令和7年出水期前に変更予定（実施日調整中）

宮城県内の大雨特別警報（浸水害）の指標

	従来の指標 (超過率 %)	新指標 (超過率 %)
流域雨量指数	130	135 変更
表面雨量指数	155	155

超過率 = 特別警報の指標となる指数値 ÷ 警報レベルⅢ（紫）基準 × 100%

指標の決め方

① 指数の既往最大値の基準Ⅲに対する超過率を算出（既往最大超過率）

② 空振りを防止するため、既往最大超過率 + 10% を基準とする

※ 今般、基準Ⅲが変更になったため特別警報の指標も変更になる

※ 宮城県の場合、流域雨量指数・表面雨量指数ともに令和元年東日本台風時の値が既往最大値

< 参 考 >

気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

発表条件

以下の①又は②を満たすと予想される状況において、当該格子が存在し、かつ、激しい雨がさらに降り続けると予想される市町村等に発表。

① 流域雨量指数の指標

流域雨量指数として定める基準値（洪水キキクル紫の基準からの超過率として都道府県毎に設定）以上となる1km格子が20個以上まとまって出現。

② 表面雨量指数の指標

表面雨量指数として定める基準値（浸水キキクル紫の基準からの超過率として都道府県毎に設定）以上となる1km格子が30個以上まとまって出現。

3-1 防災気象情報の体系整理の概要

- 「防災気象情報に関する検討会」の最終とりまとめ（令和6年6月）を踏まえた**新しい防災気象情報の運用を令和8年出水期から開始する予定**です。
- 新しい防災気象情報では、**住民の避難行動に対応した5段階の警戒レベルに整合させ、災害発生危険度の高まりに応じて各情報を発表**します。
- この方針のもとで、**情報名称の変更、警戒レベル4相当となる危険警報の新設、洪水関係の情報変更、気象防災速報の新設**など、現行の大雨警報・注意報などの気象庁が発表する防災気象情報が大きく変わります。
- 令和8年の運用開始までに、各情報の名称、各基準等について詳細を説明をすることになるが、ここでは、その概要について紹介します。

※説明内容は現時点での検討状況のため、今後の検討・調整助教により変更になりうる点があることをご承知おき下さい。

3-2 現在の主な防災気象情報と警戒レベルとの関係

減災対策協議会
仙台区気象台

警戒レベル				主な防災気象情報（警戒レベル相当情報）						
警戒 レ ベル	状況	住民が 取るべき行動	行動を促す 情報 (避難情報等)	防災気象情報						
				洪水等に関する情報			土砂災害	高潮害		
				指定河川 洪水予報 (河川毎)	洪水害 (市町村 毎)	大雨浸水害 (市町村 毎)				
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保	5 相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 (浸水害)		大雨特別警報 (土砂災害)	高潮氾濫発生情報	
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞					4 相当	氾濫危険情報		土砂災害警戒情報	高潮特別警報 高潮警報	
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	市町村は、警戒レベル相当情報などを参考に、避難指示等の発令を判断する	3 相当	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報 (浸水害)	大雨警報 (土砂災害)	警報に切り替える 可能性が高い 高潮注意報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※	高齢者等避難		2 相当	氾濫注意情報	洪水注意報	大雨注意報		高潮注意報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認する	洪水、大雨、 高潮注意報		1 相当					
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報							

市町村は、警戒レベル相当情報などを参考に、避難指示等の発令を判断する

現在の防災気象情報の課題

- 情報名称がバラバラで、どのレベルに相当する情報なのか非常にわかりづらい
- 警戒レベル4相当の情報がないものがある（洪水・大雨浸水）
- 特別警報と警報が同じ警戒レベル4になっている（高潮）
- 高潮注意報がレベル2とレベル3相当に分かれている（高潮）
- 同じ警報が異なる対象災害を兼ねている（大雨警報が土砂災害と浸水害を兼ねるなど）

3-3 洪水等に関する情報の主な変更点①

減災対策協議会
仙台区気象台

- 防災気象情報（大雨浸水、河川氾濫、土砂災害、高潮）を5段階の警戒レベルにあわせて発表。
- 対象災害ごとの情報として整理するとともに、**レベル4相当の情報として危険警報を新設。**
- **情報名称そのものにレベルの数字を付けて発表。**（例：レベル4大雨危険警報 等）
- 情報と対応する防災行動との関係が明確に。（レベルの数字で、とるべき行動が分かる！）

新しい防災気象情報の情報体系とその名称

	大雨浸水 低地の浸水や 小さな河川の氾濫	河川氾濫 1級河川などの 大きな河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面上昇や 高波による浸水	住民が 取るべき行動
5	レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保！
----- <警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難！> -----					
4	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
3	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など
2	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど）
1	早期注意情報				災害への心構えを高める

※情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

3-4 洪水等に関する情報の主な変更点②

減災対策協議会
仙台区気象台

- 洪水に関する情報は、**洪水予報河川と水位周知河川の河川ごとの情報とし、これを一般向けの警報扱い**とし、これまでの気象台による**市町村ごとの洪水警報・注意報の発表は行わない**。
- 水位周知河川については、これまで河川事務所・都道府県から提供してきた水位情報に、今後の洪水危険度の見通しも付した上で、気象台と協力して情報発表する（**当面は国管理河川のみ**）。
- 浸水害を対象とした大雨特別警報・警報・注意報は、大雨浸水に関する情報として警戒レベル毎に整理し、警戒レベル相当情報として位置づけ。**洪水予報河川・水位周知河川以外の河川の外水氾濫についても大雨浸水に関する情報の中で一緒に扱う**。（当面は都道府県管理の水位周知河川も大雨浸水の情報の中で扱う）

洪水に関する情報				大雨浸水に関する情報
分類	洪水予報河川	水位周知河川 ※当面は国管理河川のみ運用	左記以外の河川も含む 洪水警報等	
河川数	429河川 (国〇〇、都道府県〇〇)	1,774河川 (国〇〇、都道府県〇〇)	大雨浸水に関する情報 で扱う	—
発表主体	河川事務所または 都道府県と気象台	河川事務所または都道府県 と気象台が協力して発表		気象台
発表単位	河川ごと	河川ごと		市町村ごと
対象とする 主な現象	外水氾濫	外水氾濫		内水氾濫及び 洪水予報河川・水位周知河川以外の外水氾濫
発表指標	水位（実測・予測）	水位（実測） 流域雨量指数（予測）		表面雨量指数・流域雨量指数 （解析・予測）
情報名称	5	レベル5 氾濫特別警報		レベル5 大雨特別警報
	4	レベル4 氾濫危険警報		レベル4 大雨危険警報
	3	レベル3 氾濫警報		レベル3 大雨警報
	2	レベル2 氾濫注意報		レベル2 大雨注意報
	1	早期注意情報		早期注意情報

※情報名称の最終決定は、法制度などとの関係も踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

3-5 新しい防災気象情報（R8出水期から運用開始予定）

減災対策協議会
仙台区気象台

- これまで、気象警報・注意報を補足する情報等として伝えてきた様々な気象情報を、「**気象防災速報**」と「**気象解説情報**」の大きく2つのカテゴリーに分類して発表。
- 線状降水帯の発生や、記録的な短時間大雨など、顕著現象が発生または発生しつつある場合にその旨を、「気象防災速報」として速報的に伝える。

気象防災速報 …… 極端な現象を速報的に伝える情報

現状

記録的短時間大雨情報

顕著な大雨に関する気象情報

線状降水帯 2～3 時前予測
(R8運用開始予定)

顕著な大雪に関する気象情報

竜巻注意情報

今後（令和 8 年度出水期～）

気象防災速報（記録的短時間大雨）

気象防災速報（線状降水帯発生）

気象防災速報（線状降水帯予測）

気象防災速報（短時間大雪）

気象防災速報（竜巻注意/竜巻目撃）

気象解説情報 …… 現在・今後の気象状況を網羅的に解説する情報

全般/地方/府県気象情報

全般台風情報

気象解説情報（※）

気象解説情報（台風第〇号）

※何に着眼した情報なのかがわかるよう、括弧内にキーワードを付す。